



1053
卷 2



三教童喻中卷

目録

- 食ふ^{あふ} 叶ふ^{はふ} 中^{なかつ}
- 食ふ^{あふ} 人^{ひと} の 居^ゐ る^る 名^な 所^{ところ} を 知^し る^る
- 人^{ひと} 食^く る^る 名^な 所^{ところ} を 知^し る^る
- いひ 交^{まじ} へ^へ る^る 名^な 所^{ところ} を 知^し る^る
- 祓^{はら} へ^へ 吐^は く^く 唾^{つば} 交^{まじ} へ^へ る^る



○ かみより耳より

○ 魚心あれば水も有

○ 孔子も時ふ不合

○ 毒喰ば血汚ぶま

○ 貴き寺の門が知

○ 猿猴乃月

○ 古椒丸吞

○ 情ふ空又なし

○ 千里の道も一歩ふたて

○ 縁の元から堤の根

○ 馬の耳小風

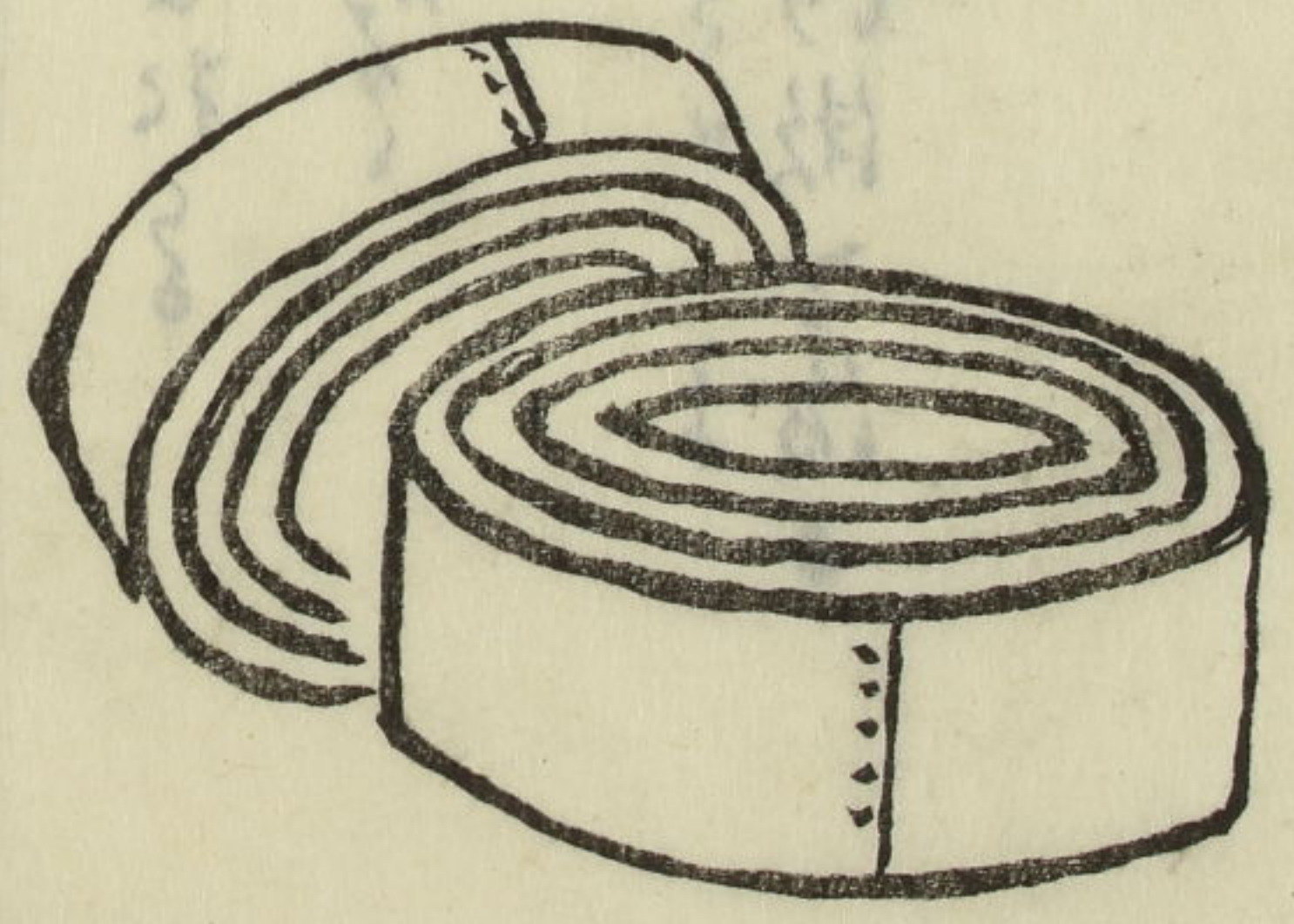
○ ありこにあらまは漱の涙

○ はちで夜

三教童喻中卷

今より叶ふ事

主有愛僕有忠心
 親有慈子有孝心
 兄有憐弟有敬
 仕夫有實婦
 有貞心

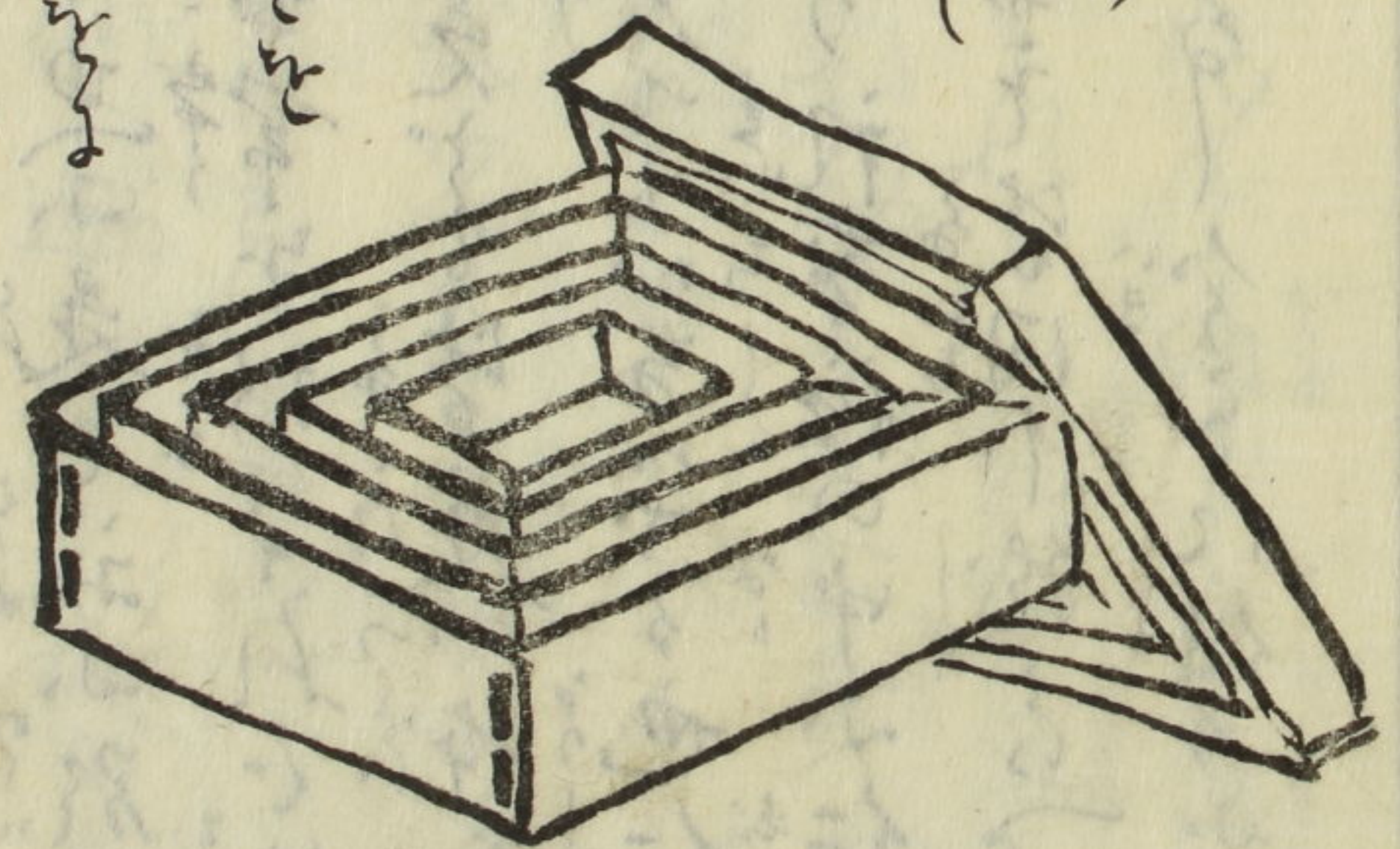


非得

世に中はいまこ

角のあつて

うへにあげ



三教童喻中

合ふるがちりといふる喻は入るを画書し
 と五常におおせし由ふ是をみふ所す凡人
 の父家や清るを五常を以てなれど治るは
 五常五事別るといふも皆是一神之人也
 五體有がれ何れが欠るかあはざる也仁義
 中ふ礼智信を以て礼智信の中ふ仁義も
 まる五事何れもふまゝで皆同に然るは仁
 義はよりふてを以て仁義に依り入るふ

半は時先へ入るは納りし形は禮なり角
 角は仁義之九き信之を以て別れて要を達する
 信也又仁義はよりてよりあはる入る蓋なり
 礼智の清る入る函之蓋と函と合ふとお合は
 ば信乃ち信ち之故は仁義はよりて礼智のれを蓋
 へ礼智のつても信あけまば蓋合はるは合
 りて合はるを以て用を達しは故は五常の
 あらふ合はるは

教人の名を知らる
 教人の名を知らる



信聞神道知天命信聞儒
 信聞神道知天命信聞儒

道察身行信聞佛道極因
 道察身行信聞佛道極因

果神儒佛令我出幸
 果神儒佛令我出幸

儒釋道入三ツれをのちてさそ
 儒釋道入三ツれをのちてさそ

神儒佛慈悲教入かうせば
 神儒佛慈悲教入かうせば

うわぬぬいふせん
 うわぬぬいふせん

人食ふを合口

け^こ喻^うの^ひあ^まき^まる^はも^も其^そ主^しを^のる^はん^とを^も新^{しん}て
 此^こ方^はより^も行^ゆひ^まる^は合^あは^るなり^やと
 是^この^ひい^ます^はの^し報^{ほう}お^もう^りふ^はい^ふと
 あり^はけ^しあ^る時^{とき}を^もツ^ツに^も免^{めん}た^ると^も時^{とき}
 へ^あら^るも^もて^もふ^ふ。人^{ひと}を^も家^けれ^る一^{いつ}時^{とき}に
 諫^{かん}を^も入^いる^はあり^をを^も合^あは^る入^いる^は
 時^{とき}を^もと^も利^り非^ひを^も況^{きやう}時^{とき}を^も言^ごふ^は

小^こ随^{ずい}ふ^はの^ひ人^{ひと}を^も使^{つか}ふ^は叱^ちり^の言^ごふ^はと^もり^ふて
 も^も及^{およ}て^も可^い禁^いふ^はも^も禁^いふ^はと^も法^{はふ}を^も
 あり^は情^{じやう}を^もけ^る長^{ちやう}変^{へん}を^もあり^はも^もは^は是^これ
 あり^は賞^{しやう}を^も使^{つか}ふ^は時^{とき}に^も合^あは^ると
 あり^は楠^{なん}公^{こう}兵^{へい}士^しに^も誤^ごを^もせ^ると^も其^その^もれ
 あり^は長^{ちやう}変^{へん}の^もあり^はと^もあり^はと^も也^{なり}
 あり^は兵^{へい}士^しを^も叱^ちり^の何^{なん}時^{とき}も^もい^ふか^き
 あり^は大^{だい}功^{こう}を^も立^たて^る

くけい主をて大味方乃得利を得る如
 智有ゆめなるかよけ反世役をPするに何ふ
 まばゆけ入るまいゆめ切可恥と云る暫
 面せざる一故は彼老侍衆入る前
 目さう一あら還り主人の仁を感ふ涙を
 悔ふゆめ恥て情むるを主と云へ故は楠入
 兵卒つれて主に背き化は走るゆめ一人は
 一世人の家僕を叱るゆめ大は異る世人の僕

を叱るゆめをてかしくけ誤る何時大に
 不慮おとるゆめ亦世の振舞をゆめ彼老侍衆
 変をいしゆめあて叱るゆめは彼老侍衆入る
 前面目を失ひ家誤いつたゆめ一面は休むいろ
 りれゆめ中侍恨るゆめをゆめゆるゆめさるゆめ
 (智有老よるゆめ得遠いゆめ有るゆめそれゆめ内は
 情を金入るゆめきりゆめけりゆめいさる人
 喰るゆめ合はるゆめいさるゆめ心ぬて可めんを

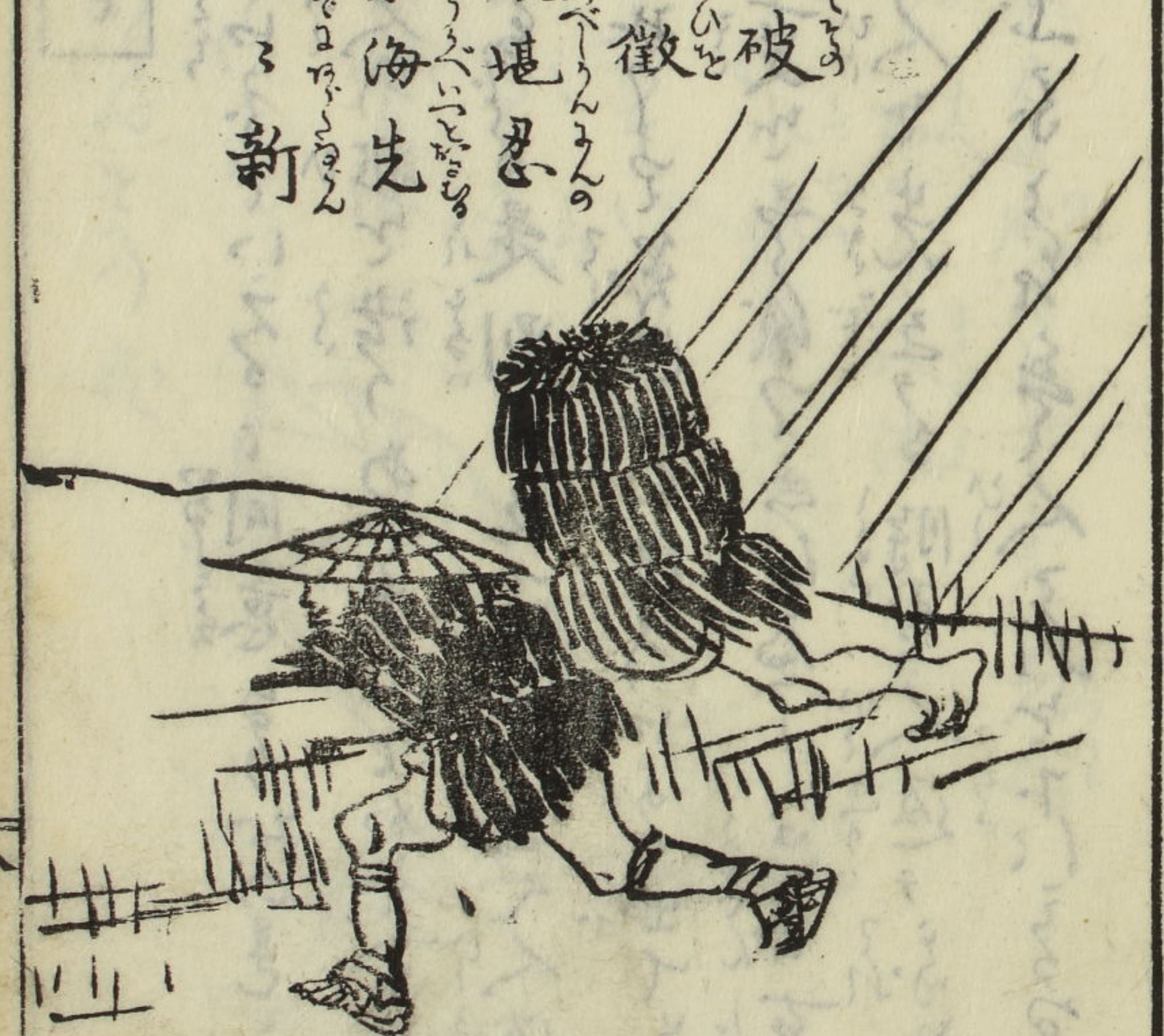
いぬをたてふ



短慮の
かた
しつ
ふ
人
おど
自
る
る

い
ぬ
を
た
て
ふ
後
の
人
の
心
を
し
る
事
の
難
し
き
事
也

短慮不功破
其身幾回徴
思須待晨堪忍
舟浮思業海先
脩家幸日新



はて吐唾き

此喻は、世にふといふる同意ありおのれ
 一思ひ人非を清めやまをかせあげ
 てせうとあらざる是別ちはてしなく垂人返
 るまけ人をせうと知いおのれ入はより出てお
 のれよかるまをせうとせうとせうと
 有りたりて人を先まする時人返テふせ
 先まするふとせうと人返をせうとせうと

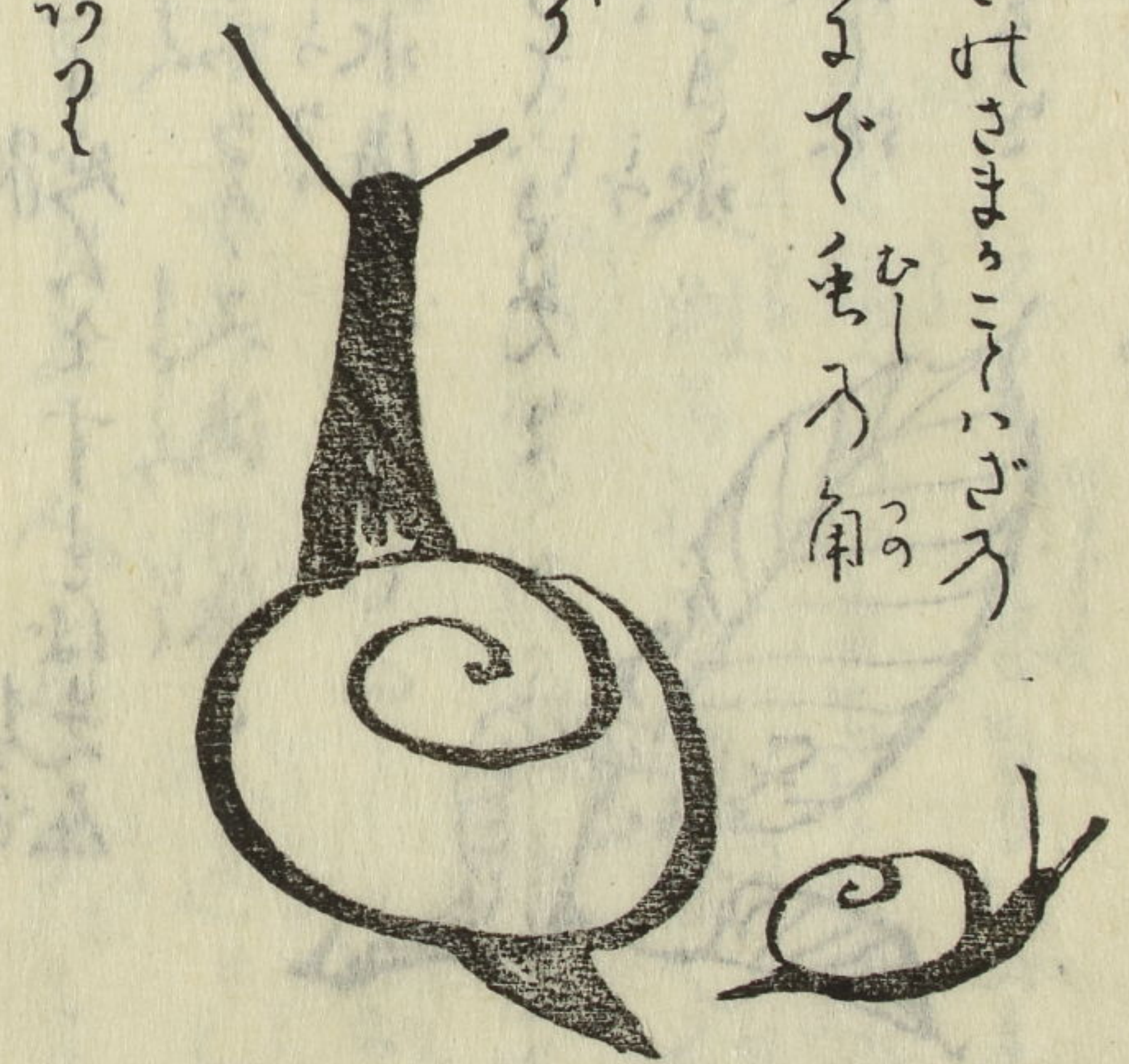
此の如く人非を清めやまをかせあげ
 てせうとあらざる是別ちはてしなく垂人返
 るまけ人をせうと知いおのれ入はより出てお
 のれよかるまをせうとせうとせうと
 有りたりて人を先まする時人返テふせ
 先まするふとせうと人返をせうとせうと



壁^{へき}耳^{みみ}あり

五^い三^{さん}三^{さん}れんきけはまゐるいごう
耳^{みみ}あうか^{あう}ま^まを^を新^{しん}入^り角^{かく}

い^いつ^つも^もえ^えき^き
き^きし^しの^のミ^ミ
い^いつ^つも^もえ^えき^き
い^いつ^つも^もえ^えき^き
い^いつ^つも^もえ^えき^き



い^いつ^つも^もえ^えき^き
聞^{きこ}人^{ひと}惡^{わる}假^{かり}不^ふ可^か謗^{ぼう}
天^{てん}無^む口^く令^し以^{もつ}人^{ひと}言^{こと}
唯^{ただ}可^か恐^{おそ}牆^{かべ}壁^{へき}有^あ耳^{みみ}
善^{ぜん}事^じ雖^{しか}少^{すく}作^{つく}人^{ひと}鳴^{なる}

魚心有し水心あり

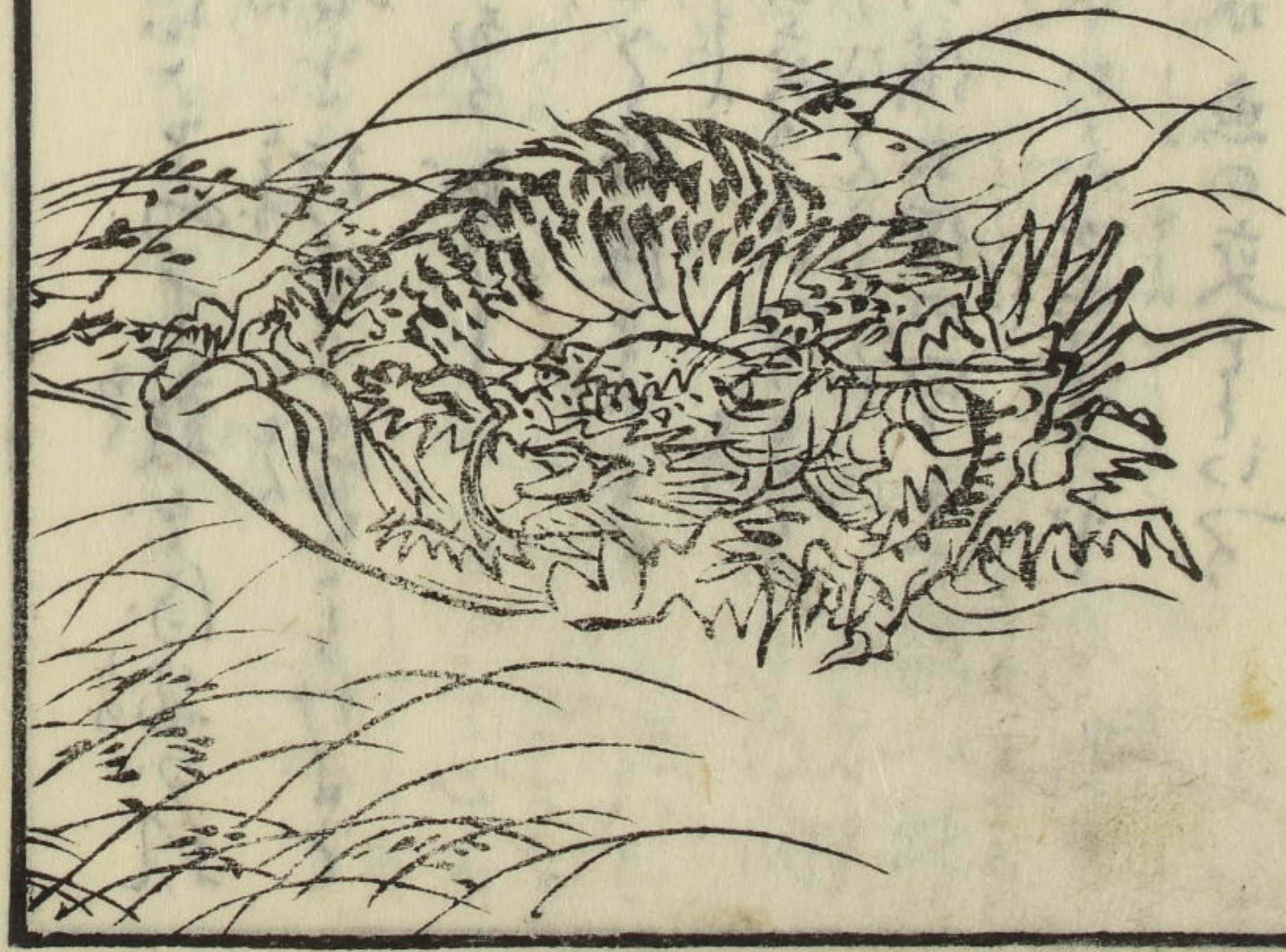
魚心あれど水心ありといふをけり。水に
つてす時を彼方より亦れを以て教ふ。此
方よりいさぐい味盡きあせは彼方より得同
じをいふ。又不和といへば絶交といふ。と
やういふ言葉をして得る時ハ彼方より心有
く和む。被を以て是なり。やうふありて魚心有
く水心ありといふ。悪をあせは悪といふ。

報ト善をあせは善といふ。て報をふ。おれ
はとん。幾夜も善を行ふ。善といふ。けり
入いより。めん。おれ。か。おれ。

因ふ。人より。て。心は。ま。ど。き。
交る。水魚の。交る。といふ。是。
蜀志。漢。入。劉備。玄徳。の。曰。く。予。が。
孔明。の。魚。の。水。の。交。る。か。め。り。と。
いふ。是。より。水魚の。交。る。といふ。

孔子之時^{とき}あらず

節^{ふし}不至^{いたらず}根^ね芽^め
 非^ひ生^{せい}賢^{けん}者^{しや}詭^ぎ
 黙^{もく}時^{とき}俟^{まち}正^{せい}交^{かう}
 種^{くさね}蒔^ま冬^{ふゆ}至^{いた}中^{なかつ}
 節^{ふし}植^{うゑ}稻^{いね}夏^{なつ}至^{いた}
 先^{まづ}中^{なかつ}耕^{かう}



美^{うつく}ふに^に夏^{なつ}秋^{あき}を^をれ

時^{とき}は^はい^いふ^ふ時^{とき}に^にあ^あらず

あふ^{あふ}ふ^ふふ^ふ

美^{うつく}ふ^ふを^をれ

山^{やま}里^りの^のう^う
 と^とあ^あに^にあ^あふ^ふふ^ふ



毒食血

此も一寸切ぐも二寸きふゆいなり
 喻々同意あり所亦を要き変じん身は
 改めよといま先あり事ふ道も一里や
 二里ハ立よりて事まで十丁廿丁一里を
 及ぶと迷ひ乃ち知つて立よりぬいせ速
 い大なるまよりさむを所よのえ要き変れぬ
 一ハ時を改め安又立度も易し一ハ悪也

り改すお却時いほくも係入して終は思と
 知ッて悪を行ふ益紙を益とすも変え思はざあし
 きも知つてもなす是係入して立てもうがもく
 あり也也なり終は毒食ハ血くあふ
 身と亡とそなり必やふあぬ極よ年
 生おん得りきとん法はあ改びべーあや
 まつて改ふふをか変るれと聖人を曰おり
 毒食ハ血くあふと知んぬて悲ま可恨也

幼少父母

有孝心

ちうふんふくきふん
中年主君

有忠ちゅうしん心

老
還
世
求

作善意

生涯慈悲

有誠心

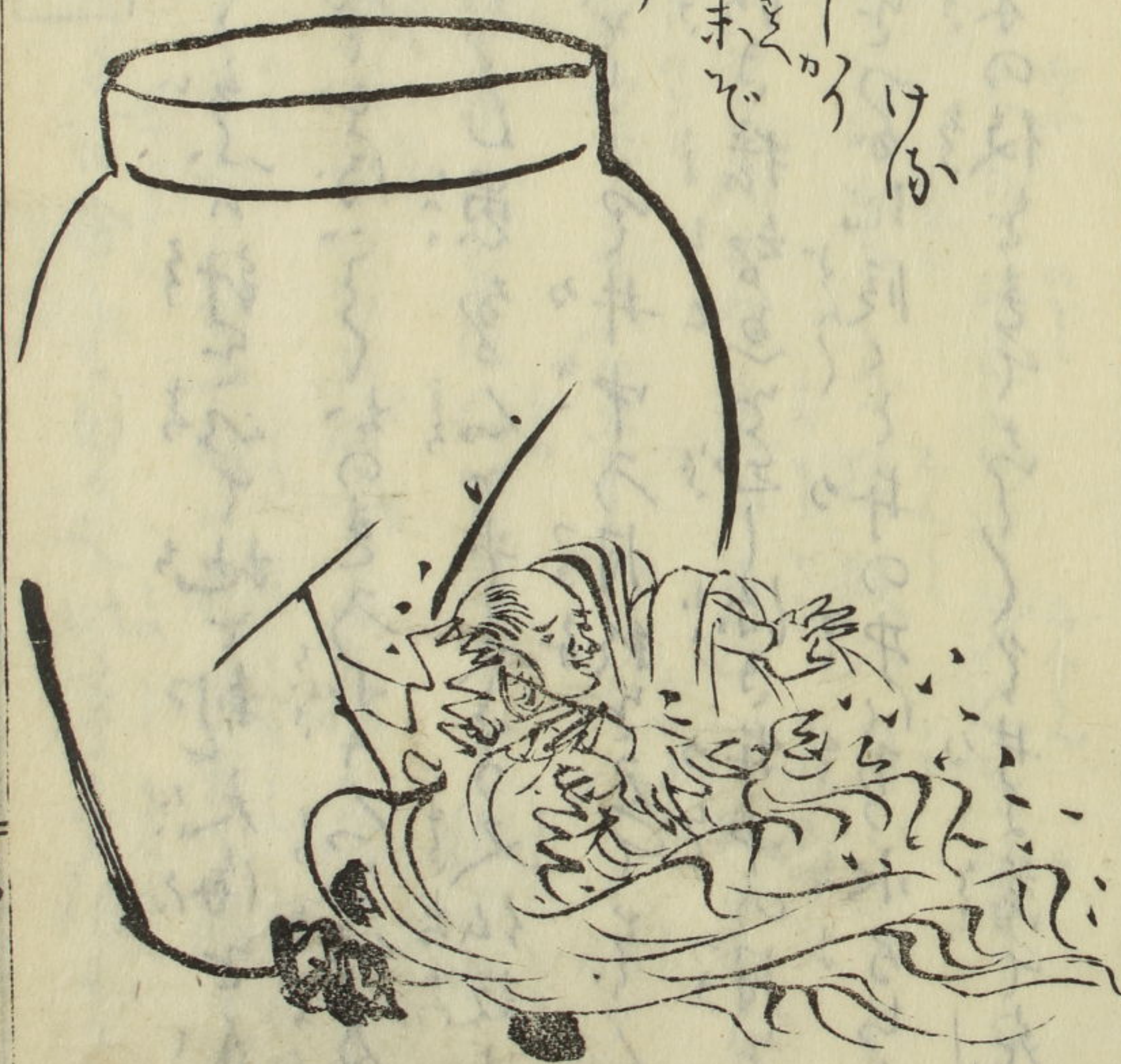


けふ
まの
あけ
けふ

お、さ、ふ、に、

親おや
小孝おやう

お、
ふ、



猿猴の月

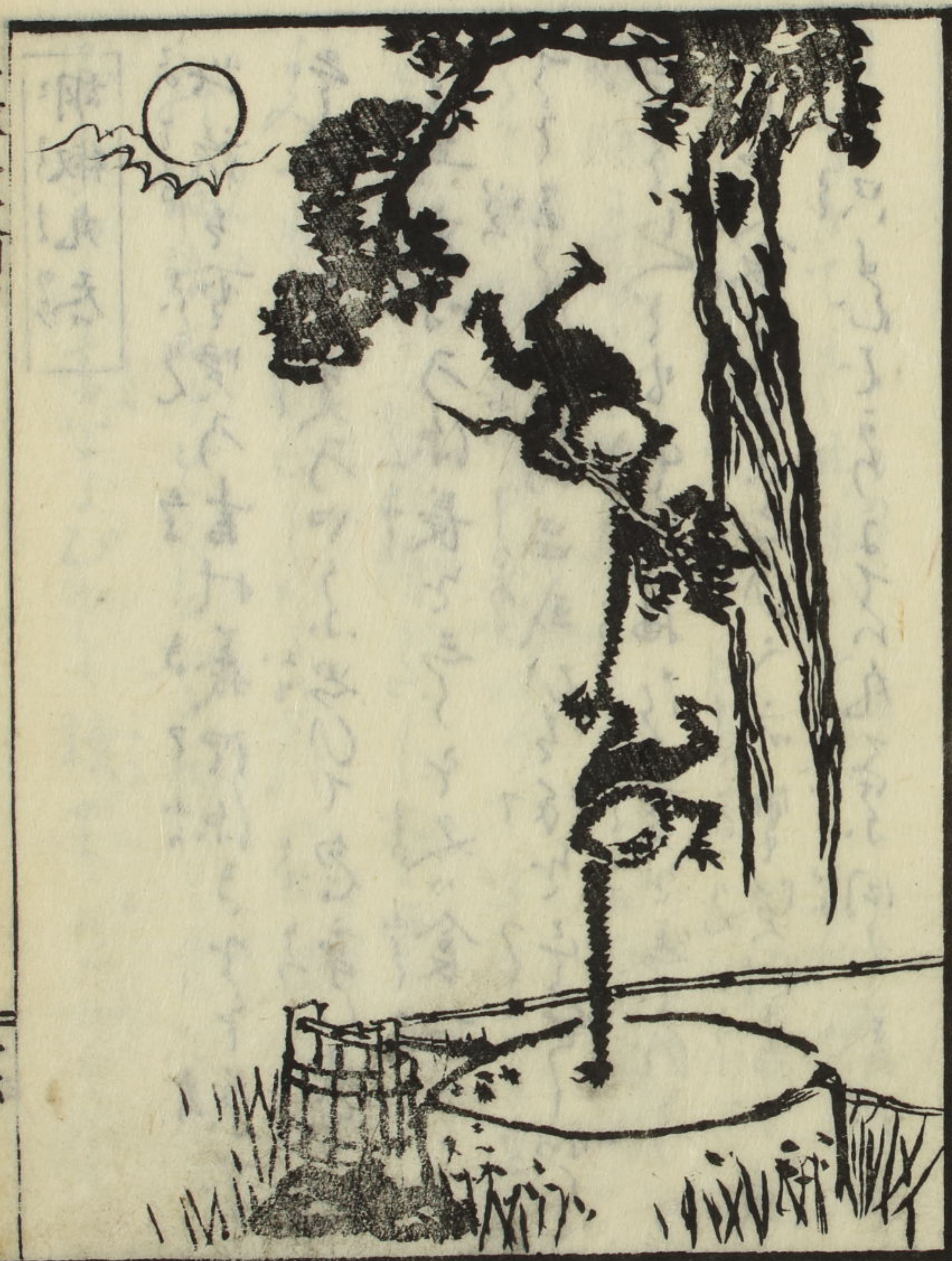
猿猴の月と云ふ針を以て地を刺し大海を
 小くせんとしつゝかのきり小きんとし及
 なき支をたしむ愚あるを半とす又仏説
 積も木にさるる井中へ月影を以てとらん
 と思ひ彼はき積智恵を以て深き井中の月を
 手にてつかに候くと井の中へ水落ち
 くかり一時木の枝をまてたゞくも井は落て死

せしと云ふ世は大方ゆきかへんを若く
 終るやと云ふは猿猴の月小いとし
 大方ゆきと云ふより先お恵の可成ゆきか
 そべし可成望と云ふは半とす十金と云ふ
 十金金乃望と云ふは人を半とす一徳の時ハ
 忽ち十五金にやかゝる金一やれより廿金或
 も廿金と云ふは半とす一時ハ亦廿金と候くと
 半の時ハ終る而金もあへけ事半限より

三孝圖

〴〵学文或ハ家職法藝云々変皆ホム
 〴〵用ハ時々自然トモトモ云々ナリクメ十
 金ナキを以テ而金二而金の及メ変ム
 〴〵ホム一法ニホム一ホムホムホムホム
 月ニホムホムホムホムホムホムホムホム

及あびひかきし変へひたふむもととふふ入い
之こ解かい米こめふふけけかか猪ちちちああややうう



胡椒丸吞

この^こ讀^{よみ}を^を聖賢^{せいけん}の^の書^{しよ}に^に義理^{ぎり}を^を示^しす^す
 其^{その}や^やを^を変^へふ^ふや^やふ^ふ思^{おも}ひ^ひて^て忽^{たち}に^に是^{これ}を^を法^{はふ}
 其^{その}意^い味^みを^を你^{なんぢ}長^{なが}を^を考^{かう}ふ^ふ又^{また}ハ^ハ食^く物^{ぶつ}を^を小^{せう}
 其^{その}玉^{たま}を^を臨^{りん}抽^{ちう}の^の品^{ひん}或^{ある}は^は手^てを^をこ^こせ^せ物^{ぶつ}を^を
 其^{その}玉^{たま}を^を臨^{りん}抽^{ちう}なる^{なる}変^へを^を考^{かう}ふ^ふう^う
 其^{その}食^くする^{する}を^を考^{かう}ふ^ふ人^{ひと}亦^{また}聖賢^{せいけん}の^の書^{しよ}を^を考^{かう}ふ^ふ
 其^{その}只^{ただ}も^も心^{こころ}を^を考^{かう}ふ^ふう^うは^は其^{その}丸^{まる}を^を考^{かう}ふ^ふ同^{おな}じ^じに^に義理^{ぎり}を^を

吐しやう有聞ふも夢やうあり半と人ば昔し
かこふと誰か大切を主しおありとそ趣
を諸ふ聞人き問へき要をばとていふる
変に問いも手柄吐しまでて流る人
習ふある変なしそ変る始終人の肝
要とするあり吐し人き亦そ始終の要を
そねて吐し登る変るおける皆此人
あふし昔新田義貞楠の拙語をす其

変に孫吳入書て見給ひも又と誰人
習ひて初るや謀るを給ひや問は楠公の
甲し未此変に九郎義経お習ひりまうと云
小義貞お笑ふて心成腹の戯き聞もお不
えや何まろ時何まれおよ九郎の経は
忠談いし習ひ給ひーやと問ふは楠公
曰く某元暦の記をくこえゆて義経の
行いに習ひりうと云しは義貞大ふんど



実^{じつ}は賢^{けん}くねばへやまういへへふ書^ふかへるは
まをわ^わころをにつけてまふまういそのなりと
海^{かい}かんどもまゝとあんそらひよくく
受^うへてきてそ味^{あじ}をいんうなるべ

いへる
のこま
一口^{ひとくち}に舌^{した}のつまみあぢいを

合^あひふその恥^{はにか}珍^{めづ}やいあふ

情小向ふ奴いあし

此喻ハ魚ハ水ハありといハるや大ニ
 同意シテいハるハ主テ怒リ旬分ト
 此方ヨリ先ニ教ヘりといハるにあやまり
 居る小向ふ奴変アリといハる事ナリ昔ニ
 國ハ時潼關ト云ハる曹操關羽ハ出
 合ハ時曹操出テ出ルバ忽チ關羽ガ為メ殺
 されハいぬ変ハ起テるヨリアリ關羽ヲ拜

人情ハ水ノ終ニ至ルナリ一ハ
 關羽ハ亦変アリ合ハるナリ又ノゾナリ
 又大ニいハるハ是ハ大ニ也ト云ハる尾ニ
 ありハるハ人耳ニカテ横ニ伏スニ
 ありハる時ハ亦変アリ合ハるナリ無ス
 ラ形ハバ一況ヤ人ハ怒テ云ヤカク
 人ヲ專スルハ云ヤするハ云變ナリ
 云云又ハ事ヲ入良計ナリ

千里乃^{ちり}道^{みち}も一歩^{いっ}に^がなる

一文^{いちもん}の^だ銭^{せん}をえよ
年^{とし}は^あり^ある^あを
あ^あ代^よを^ふゆる

い^おつ^おろ^おす^おれ

いつ^いつ^つ世^よも^ある

時^{とき}は^ある^ある^あ



ス^ステ^テノ^ノミ^ミナ^ナス^スキ^キツ^ツク^クロ^ロヒ^ヒア^アタ^タラ^ラシ^シキ^キモ^モラ

諸^{しよ}品^{ひん}繕^{しん}古^こ制^{せい}新^{しん}

時^{とき}

人^{にん}工^{こう}費^ひ雖^{すい}有^あ損^{そん}

失^{しつ}

雑^{ざつ}費^ひ施^し人^{にん}是^こ陰^{いん}

德^{とく}

不^ふ用^{よう}則^{すなは}無^む益^{えき}至^{いた}

朽^く



蟻あひの穴あなは堤つみの崩くずれ々

儀ありの穴あなから堤つみの端はしまでいふ小変こへんより大變だいへん
 小玉こたまよりいふよりある変へんと思おもひてゐる小変こへんなり
 おげおんしは長ながく終つまり身みを亡なし家いへを失うは
 小玉こたまのなりなり燭ろうそくのさへさう天てんを焦こやめき
 大火たいかとある煙えん草くされ吸あ売うより救きうる斬ざんを灰はい塵じんと
 なるとおひふ儀ありの穴あなより堤つみの端はしまでいふ小変こへんより大變だいへん
 小変こへんよりいふよりある変へんと思おもひてゐる小変こへんなり

馬の耳小風

正統の祓ひ
 かみめあき
 まく不実を
 捨さうに

正統に授まぬ

つづく

まき



神不受

非禮非儀

八百萬神專慈悲
 正路元来叶神慮
 雖不祈令我得被



有りて子小なりは浅瀬を渡る

有りて子にならまは浅瀬を渡るといふ智者入
一失愚者一徳有変をあらそふとて智者と
いふと愚者入一言一宜なるを用いて思ひぬ幸
を得る入類又と唐土に既覺が思ひぬといひ
言葉還て又一禁言あり一類は皆ある子に
あらは浅瀬を渡るか保づ又凡勝を争はる
川を渡る小ありする老を川に浅瀬を渡るに

そのなり有る老いふる事その也いんこれ
は有る老いふる事いふるを用ひてあらは
者ありいふて浅瀬を渡るにあらはぬる
なり故に有る子に教らるる浅瀬を渡るにあら

有る子に教らるる浅瀬を渡るにあらはぬる
者ありいふて浅瀬を渡るにあらはぬる
なり故に有る子に教らるる浅瀬を渡るにあら

撫で居る

不忘恩被逐世態

私報恩不遂

其辰一簞

肉亦一瓢飲

請君不厭貧家珍



おどり酒 鶏乃さうね

かき 德利きまつ

おどりもいっふふ

小半乃酒 色

夫婦乃

忍ぶ

めいごとなよ

くさくさ

くさくさ





三教童喻中卷終



